

老朽屯所 速やかな建替えを 令和7年度以降の着手を目指す



やまもと まきお
山本 牧夫 議員

問 黒潮町消防団拳ノ川分団の屯所は、昭和56年に建築し、43年を経て建物の老朽化と耐震に問題がある。又、備蓄品を保管する施設もなく、この対策も急を要する。

建て替えについては、大方地域の浸水想定区域を優先した事や、集会所との合築案がらみで、後回しになっている。

町消防委員会要望対応結果に基づき、後回しにせず令和7年度に予定通り着手できるか。

答 村越情報防災課長

浸水区域内の消防屯所建替は、対象消防団との協議により、建築場所が決まった屯所から順次建替を進めている。

拳ノ川分団屯所は、単独で建築する案で地元消防団や区長と協議を行い、令和6年度に建築場所を確定した後、財政等の調整を図りながら、令和7年度以降の着手を目指していく。



黒潮町消防団拳ノ川分団屯所（令和6年2月12日）

消防団員

定数確保と報酬見直しを 確保対策を講じていく

問

南海トラフ地震や、通常の火災、台風、豪雨等に対して、消防団の存在は身近で大切なもの。しかし、現状は少子高齢化や人口減、地域の連携が希薄になり、団の定数に対する実員が減少している。

団員の確保と使命感を持って活動してもらうためにも、出勤報酬の見直しを検討すべきではないか。

答 村越情報防災課長

町消防団は、定数290名に対し、現状の実員は262名で年々減少している。

団員の処遇改善を図るため、令和4年度に消防庁が定める標準額を基に、年額報酬と出勤報酬の見直しを行った。



消防車点検と放水訓練を行う佐賀分団
（令和6年3月22日）

また、今年度から機能別団員制度を導入し、団の活動をPRしながら、団員確保対策を講じていく。